

特殊な樹脂で防湿・防蟻層を同時施工

クリーンバリア工法とは、床下の土壌面やコンクリート面に防蟻薬剤を含んだ特殊な樹脂を散布し、表面に皮膜を形成して土壌からの水分蒸発やシロアリの侵入を防止する工事。公益社団法人日本しろあり対策協会の認定工法で「防湿工事」と「防蟻工事」を同時に施工できる。床下の湿気・シロアリの侵入・カビ臭・木材腐朽を抑制し、長期に渡って防湿・防蟻効果が持続する。また、一般住宅だけではなく文化財や神社仏閣等にも採用されており、安全性と信頼性の高い画期的な工法。

■工法概要

エマルジョン樹脂の主剤とウレタン樹脂の硬化剤の2液を混合させて散布する。

従来の白アリ防除法とは異なり、クリーンバリアの樹脂の中に防蟻薬剤を入れ、皮膜中に固定させる。

皮膜は、散布直後より硬化し始め、2～3分後には造膜する。土壌の含水率により固まる時間は増減するものの、約1～6カ月ほどで皮膜は安定する。

工期は、住宅構造と廃材撤去の量にもよるが、10坪で約1日間、20坪で約2日間、30坪で約3日間が目安。



一般住宅施工後

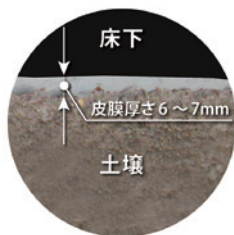


施工中

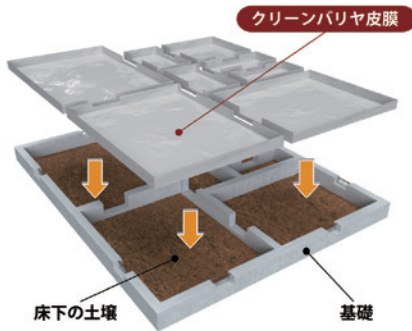


吉野ヶ里遺跡施工

皮膜断面図



防蟻薬剤は皮膜中に固定されるため、薬剤臭が部屋の中へ流入したり、雨水・地下水へ流れ出すことはないので環境汚染の心配もない。



※床下を皮膜でカバーして、土壌からの水分上昇を防ぐ

問い合わせ先

株式会社日本衛生センター ☎042-576-0110 <https://www.nippon-ec.com/>